

## 私が編集及び執筆者として関わった学術書のエピソード ー犯罪心理学が学べる平研究室ー

学術書の内容と担当部分を紹介しました。※は出版にまつわる裏話です(平伸二)。

### 「テキスト司法・犯罪心理学」

越智啓太・桐生正幸（編著）

北大路出版 2017年

[http://www.kitaohji.com/books/2975\\_8.html](http://www.kitaohji.com/books/2975_8.html)

今や人気科目の「犯罪心理学」。そのテキストの決定版がこの「テキスト司法・犯罪心理学」。私は、「第6章 強制わいせつ・強姦」「第21章 中枢神経系のポリグラフ検査：脳波を用いたポリグラフ検査」を担当しました。

※編者は私と同じ科捜研出身の越智啓太先生(法政大学)と桐生正幸先生(東洋大学)でした。もうそれは古い仲間です。途中から急に第6章のオーダーが入りましたが、断れませんでした。しかも、北大路書房の編集者は、今や取締役社長になられた盟友の奥野浩之氏でした。3名とも長い知り合いのため甘えがでたか、今回は初めて原稿の督促を2回も受けるという失態を演じてしまいました。失礼を深謝いたしますm(\_ \_)mしかし、私よりまだ遅筆の人がいたらしい。なかなかの猛者である。誰かは知らない。本当に(^\_-)

なお、お陰でテキストのタイトルが、公認心理師指定の科目名に変更となりました。



### 「犯罪心理学事典」

日本犯罪心理学会（編）

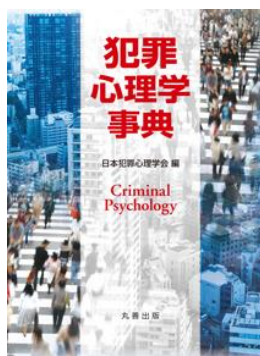
丸善出版 2016年

[http://pub.maruzen.co.jp/book\\_magazine/news\\_event/2016/108955.html](http://pub.maruzen.co.jp/book_magazine/news_event/2016/108955.html)

日本犯罪心理学会は、1963（昭和38）年に設立され、本事典はその設立50周年記念事

業の一つとして刊行されました。本事典は「中項目主義事典」で、実に 344 項目が収録されています。各項目は、「矯正」「家庭裁判所」「保護」「警察」「大学」の 5 つの研究領域において、犯罪心理学研究・実務に携わっている総勢 251 名によって執筆されています。その中で、「照明と犯罪予防」の項目を担当しました。青色防犯灯と私たちが開発した青色・白色複合 LED 防犯灯のことを記述しました。また、コラム「大学の防犯サークルと犯罪心理学教育」でゼミ生の活動を取り上げました。

※第 8 章は科警研の島田貴仁先生と宮寺貴之先生が編集担当でした。島田先生は、何度も福山大学を訪れて、ゼミ生相手にゲスト講義してくれたり、ゼミ生の発表を聞いてくれたり、「地域安全マップ」を行う PACE 福山支部の活動を調査しています。全国でも大学生防犯ボランティアとして模範的な活動と言って誉めていただき、原稿依頼された次第です。彼が来るといつも夜中まで話が盛り上がり、心地よい二日酔いになるのです(^\_^)。



## 「誠信 心理学辞典 新版」

下山晴彦（編）

誠信書房 2014 年

<http://www.seishinshobo.co.jp/book/b178052.html>

1971 年『心理学辞典』、1981 年『誠信 心理学辞典』として刊行した辞典を 33 年ぶりの全面改訂です。従来の用語の五十音順形式でなく、心理学を 27 領域に分け「総説」のあとに「大項目」「小項目」が続く構成です。「犯罪・司法」の大項目の中で「ポリグラフ検査」の小項目を担当しました。

※2013 年に全面改訂した『新版 心理学事典』と並ぶ鉄板的な心理学の辞書です。私も学生時代に平凡社と誠信書房の辞書で勉学に勤しみました。大学院入試、公務員試験の対策として使用し、1971 年版の『心理学辞典』は赤ペンで一杯になっていました。と思いきや、赤ペンは五十音順の力行で終わっていました(^\_^;)。今後、大学院入試や公務員試験に加えて、公認心理師という国家資格の試験対策本として皆様に活用されることを期待します！ いずれにしても平凡社と誠信書房の辞書に執筆できたとは

感無量です。



### 「最新 心理学事典」

藤永 保 監修

平凡社 2013 年

<http://heibonshatoday.blogspot.jp/2013/09/30.html>

1957年に刊行された『心理学事典』、1981年に全面改訂をほどこした『新版 心理学事典』は、累計10万部を超すわが国屈指の心理学事典です。約30年ぶりに全面改定された中で「性犯罪」の項目を担当しました。

※おそらく、心理学を専攻した人で平凡社の「心理学事典」を知らない人はいないでしょう。私も学生時代に『心理学事典』（3,500円；消費税がなかった！）、科捜研時代に『新版 心理学事典』（12,360円；消費税が3%だった！）を使用していました。その心理学事典に執筆者として名を連ねることができるとは光栄なことです。でも、『最新心理学事典』、高すぎて手が出ません（23,100円；消費税が5%！ 来年度からは8%で23,760円？）。2014年3月末まで、刊行記念特別定価 20,475円です。研究費で注文しました(^^)／



## 「現代社会と応用心理学 7 クローズアップ犯罪」

谷口泰富・藤田主一・桐生正幸 編

福村出版 2013 年

<http://www.fukumura.co.jp/book/b122107.html>

日本応用心理学会が企画した「現代社会と応用心理学」の第7巻「クローズアップ現代」の中で、脳機能研究の観点から「嘘と脳」(pp. 176-184)を担当しました。19号館のシールドルームの実験風景が掲載されています。

※日本応用心理学会が2013年に80回大会を迎えることから、それを記念して「現代社会と応用心理学」の企画が始まったようです。「学校」「恋愛」「健康」「職場」「メディア」「高齢社会」「犯罪」の7巻から構成されています。朝倉書店の朝倉心理学講座もそうでしたが、シリーズもので最初に刊行されるのは「犯罪」領域の本です。警察関係、矯正関係の研究者は真面目なのです。法に関係した仕事なので締め切りを守るのです。多分(笑)。しかし、この本は学会企画ということでボランティア執筆でした。私は会員でもないのですが、谷口先生と桐生先生に頼まれたら断れません。喜んで書かせていただきました(T\_T)。



## 「法と心理学の事典 ー犯罪・裁判・矯正ー」

越智啓太・渡邊和美・藤田政博 編

朝倉書店 2011 年

<http://www.asakura.co.jp/books/isbn/978-4-254-52016-3/>

法学や心理学の基礎的・理論的な紹介と考察から、様々な対象への経験的な研究方法まで、中項目形式で紹介。「8章 犯罪捜査と心理学」で「ポリグラフ検査」「中枢神経系指標を用いたポリグラフ検査」を担当しました(pp. 320-327)。

※定価 14,700 円。高い!? しかし、内容を見て納得! 244 項目あるので、1 項目にすると約 60 円。お買い得です。



### 「犯罪と市民の心理学—犯罪リスクに社会はどうかかわるか—」

小俣謙二・島田貴仁 編著

北大路書房 2011年

[http://www.kitaoji.com/index\\_s.html](http://www.kitaoji.com/index_s.html)

犯罪という社会的現象が市民の意識や行動にどのような影響を与え、それに市民や社会がどうかかわるかをまとめた、新しい視点の犯罪心理学の学術書。「青色防犯灯の現状と青色LEDによる新たな防犯灯開発」(pp. 181-184)を執筆しました。

※平ゼミ1期生で名古屋大学大学院博士後期課程(大平英樹研究室)に進学し、静岡県警警察本部刑事部科学捜査研究所で勤務する、濱本有希さん(科捜研の女!)が「地域安全マップ」を題材に執筆しています。



### 「性犯罪の行動科学—発生と再発の抑止に向けた学際的アプローチ—」

田口真二・平伸二・池田稔・桐生正幸 編著

北大路書房 2010年

[http://www.kitaoji.com/books/2727\\_3.html](http://www.kitaoji.com/books/2727_3.html)

2004年から2007年まで、日本心理学会で「性犯罪」に関するワークショップを企画しました。そのワークショップの内容をそこで知り合った研究者・実務家とともにまとめ

た本です。

※日本心理学会でワークショップを開催して、その成果を学術書にまとめるのは「心理的時間」「ウソ発見」に続く第3弾です。いつも北大路書房の奥野浩之氏にはお世話になっています。いつか爆発的に売れる本も書きます(笑)。



### 「心理学基礎実習マニュアル」

宮谷真人・坂田省吾 代表編集

北大路書房 2009年

[http://www.kitaohji.com/books/2665\\_8.html](http://www.kitaohji.com/books/2665_8.html)

心理学を本格的に学ぼうとする入門者に、その基礎的な心理学実験等を体験してもらい、レポートにまとめるノウハウや、研究に必要なスキルを習得することを通して、心理学のアイデンティティとは何かを実感してもらえる好著。実験法の「虚偽検出」を担当(pp. 136-137)。

※福山大学の心理学実験実習(2年必修)ではこのテキストを使い、学生達が「虚偽検出」に挑戦中です。みんなドキドキしながら楽しんで実験をして、意外に当たるとみんなビックリしています。元本職ですからね(笑)。



## 「嘘とだましの心理学」

箱田裕司・仁平義明（編著）

有斐閣 2006年

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641173206>

最新の心理・医・生理・脳科学研究の知見をもとに、「嘘」「だまし」の心の仕組みをやさしく解き明かしています。ポリグラフ検査の観点から執筆。

※日本心理学会が行っている一般向けの日本心理学会公開シンポジウムは、実はこの「嘘とだましの心理学」が第1回目でした。私は九州大学で講演しました。



## 「朝倉心理学講座 第18巻 犯罪心理学」

越智啓太（編著）

朝倉書店 2005年

<http://www.asakura.co.jp/books/isbn/978-4-254-52678-3/>

最新の心理学の知見を網羅し、心理学を学ぶものに体系的な知識を与えることを目的とした、海保博之監修による朝倉心理学講座全19巻の第18巻「犯罪心理学」の中で「ポリグラフ検査」を担当した(pp. 119-133)。

※編者の越智啓太先生は警視庁科捜研の勤務歴がある元同僚。テレビドラマ「BOSS」「CONTROL」の監修も。ちなみに、「CONTROL」のエンドロールで藤木直人さんが演じる南雲準教授が持っている本がこの「犯罪心理学」でした。



## 「法と心理学のフロンティアⅡ 卷ー犯罪・生活編ー」

菅原郁夫・サトウタツヤ・黒沢香（編著）

北大路書房 2005 年

[http://www.kitaohji.com/books/2439\\_9.html](http://www.kitaohji.com/books/2439_9.html)

法律学と心理学の分野にまたがる研究領域に関する概論書。第2章「犯罪と心理学」の中で「ポリグラフ検査」（23 頁）を執筆した。



## 「科学的虚偽検出の最前線」

松田俊 編著

多賀出版 2004 年

<http://www.taga-shuppan.co.jp/books/books.php?id=628>

1997 年から 2002 年までの日本心理学会における、ワークショップの話題提供者と指定討論者が、自らの発言をもとに加筆修正を行い最新の虚偽検出の動向を紹介した。第2章「ワークショップ」の中の、「ウソ発見の現状と未来」（46 頁）、「虚偽検出ー実務と研究の接点を求めてー」（16 頁）を担当した。





## 「時間を作る，時間を生きる－心理的時間入門－」

松田文子 編

北大路書房 2004 年

[http://www.kitaohji.com/books/2355\\_4.html](http://www.kitaohji.com/books/2355_4.html)

研究者向けに刊行した「心理的時間」(1996)の一般読者向けの入門編として執筆した。第1章「心理的時間とは」で脳と遺伝子から見た時間についての話題を2話，第3章「テンポとリズム」でパーソナルテンポ，時差ボケなどを含む話題を5話担当した(28頁)。

※中高生にも読みやすい内容と長さで書かれています。心理的時間の世界に魅了された，高校生からメールも来たことがあります。



## 「犯罪に挑む心理学」

笠井達夫・桐生正幸・水田恵三 編

北大路書房 2002 年

[http://www.kitaohji.com/books/2288\\_4.html](http://www.kitaohji.com/books/2288_4.html)

犯罪捜査，犯罪予防，矯正の現場に携わる心理学者が，現場の犯罪事情をふまえてまとめた犯罪心理学の概論書である。第9章「犯罪心理学はもっとおもしろくなる」の中の第4節「精神生理学者から」を担当し，最新の脳機能研究の成果が，犯罪行動の解明に役立つことを紹介した(3頁)。

※刊行時に関西国際大学の桐生先生(現在は，東洋大学教授)は，山形県警本部科捜研の勤務経験あり。もう20年近いお付き合いですが，「人柄の桐生さん」と呼ばれるように仲間内でも人気者です。その才能はテレビ出演でも発揮されています。もちろん，2016年に日本犯罪心理学会第54回大会を大会会長として引き受けられるなど，学界でも重鎮です。



### 「ウソ発見－犯人と記憶のかけらを探して－」

平伸二・中山誠・桐生正幸・足立浩平 編著

北大路書房 2000年

[http://www.kitaohji.com/books/2183\\_7.html](http://www.kitaohji.com/books/2183_7.html)

わが国初のウソ発見に関する学術書。第1部はウソに関する心理学とウソ発見の歴史を概観し、第2部では現在までの研究成果と今後の展望をまとめ、今後のウソ発見研究の発展を促すことを企画した。筆頭編者として企画・構成・編集を担当するとともに、終章のほか2章4節、4章3節、トピックス10点を担当した(43頁)。

※広島県警察本部科捜研時代に同世代の仲間を中心にまとめた思い出の1冊。日本心理学会で初めてワークショップを企画して、その成果をまとめました。この分野の研究者のバイブル的存在です。自画自賛(笑)。北大路書房は「犯罪の北大路」(犯罪心理学の本を多く出版しているという意味です…)と言われていますが、そのきっかけを作ったのがこの「ウソ発見」です。北大路書房の奥野浩之氏も、『「ウソ発見」から始まった“犯罪心理学本”のラインナップ』と私信メールで記しています。本のカバーデザインは、福島県警察本部科捜研の三本照美氏。瞳の中にERPの波形が描かれています。



## 「表出行動とウソ発見の心理学」

平伸二 著

多賀出版 1998 年

<http://www.taga-shuppan.co.jp/books/books.php?id=443>

平成 9 年度文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費（申請番号 92004）」の交付を受けての刊行で、広島修道大学から博士（心理学）を授与された際の学位論文を加筆・修正した。表出行動に関する 17 の実験と、大脳の情報処理過程のものさしである、事象関連電位を指標としたウソ発見に関する 4 つの実験を収録した。

※一生に一度の単著。大学院から 14 年間の研究の集大成。時間が取れたらまた単著に挑戦したいものです。編集者の方、よろしくお願いいたします m(\_ \_)m



## 「新生理心理学2 - 生理心理学の応用分野 -」

宮田洋（監修），柿木昇治・藤沢清・山崎勝男（編集）

北大路書房 1997 年

<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/guest/cgi-bin/wshosea.cgi?W-ISBN=4762820946>

生理心理学の応用分野を紹介する 2 巻において、「23 章 多様な虚偽検出法：中枢系」を担当した（8 頁）。犯罪捜査に応用されている虚偽検出のうち、大脳の情報処理過程の指標である脳波・事象関連電位による虚偽検出の研究と応用例について解説した。

※当時の日本生理心理学会のメンバーで完成した全 3 巻の 1 章を担えた感激は忘れられません。監修、編集をしていただいた先生方は、何れも日本の生理心理学を支えてきた方々です。ありがとうございます。しかし、発行から 10 年以上が経過、そろそろ新版の登場が待たれるところです。



### 「医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー」

山田富美雄 監修

北大路書房 1997年

[http://www.kitaoji.com/books/2085\\_7.html](http://www.kitaoji.com/books/2085_7.html)

10章「パーソナリティ」の1節「パーソナリティの理論」、4節「パーソナリティの測定」を担当し、人間行動理解の手助けとなる、パーソナリティの基本的理論とその把握のためのさまざまな方法について概説した。また、パーソナリティに関するコラム3点、実験実習1点を担当した(5頁)。

※監修の山田富美雄先生は、アイデアとユーモアでどんな仕事も簡単に片付けてしまう、疲れを知らないスーパーマン。この本も見開きA3版の大きさを一つの項目が完結する、当時はユニークな構成で好評を博し、医療、看護、健康関係の心理学教科書として定番となりました。日本生理心理学会で「若手会」を発足させて大学間交流を進めて下さった大恩人です。その山田先生も還暦をお迎えになったとか・・・(2011年)。ここだけの話にしておいて下さい(笑)。



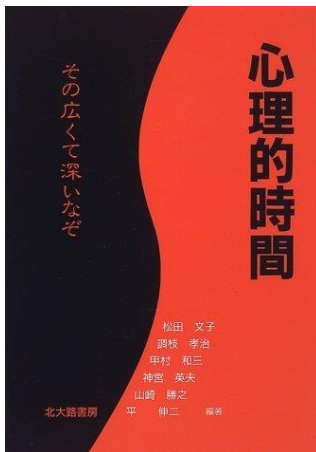
## 「心理的時間～その広くて深いなぞ～」

松田文子・調枝孝治・甲村和三・神宮英夫・山崎勝之・平伸二 編著  
北大路書房 1996年

第3章「テンポとリズム」及び終章「これからのアウグスティヌス」を担当(84頁)。  
第3章第2節で「精神テンポの発現機構」について論述したほか、終章で物理学と生物学における時間を概観して、心理的時間の特徴を明らかにした。さらに、心理的時間研究の総括と今後の展望について論述した。

※心理的時間研究のバイブルです。心理学研究の世界的な第一人者であり、研究の鬼として有名だった松田文子先生が丹精込めて編纂された本です。末席編者の私は、恐怖におびえながら、原稿執筆と担当章の編集に年末年始返上で臨んだことを思い出します。でも、無事仕事をやり終えて(?)、福山大学心理学科開設時には、松田先生からお誘いを受けて着任させていただきました。編者6人組は、今でも日本心理学会の時に同窓会をしています。もちろん幹事は私です…。

<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/htm/4762820598.html>



## 「教育心理学概論」

河合伊六(編著)

学術図書出版 1985年

第5章「人格と適応」の2節「人格形成」と3節「人格診断の方法」を担当。(15頁)

※大学院の時に初めて一般書店から発行されるテキストに執筆させていただきました。

## 「精神テンポの基礎的実験研究」

杉之原正純・松田俊・平伸二(編著)

広島修道大学総合研究所 1985年

精神テンポに関する研究を review するとともに、人格心理学における精神テンポの考え方について論述した。そして、杉之原研究室で行った、精神テンポの一貫性・安定性に関する結果を報告した。(全頁数 118 頁)

※恩師の杉之原正純先生のもとで最初にした学術書(叢書)です。「精神テンポ」研究の名著と自負しています。